

主のご復活、おめでとうございます。

昨年までは、色とりどりのイースターエッグをたのしみに、主の復活祭を祝ったものだったが、最近は多くの「思い」を感じている。十字架の苦しみを味合わされたキリストの「思い」、いつくしみの特別聖年後の「思い」、高山右近の列福式を天から見守っている溝部司教の「思い」、震災の復興に関わっている人々の「思い」、貧困と世界中で不当な権力に苦しむ人々の「思い」。これら数々の思いを主と共に、主に信頼して、大きな喜びで迎える復活祭でありたい。

第41回日本カトリック映画賞 『この世界の片隅に』 に決定

片瀨須直 監督 / 2016年作品

授賞式&上映会 2017年5月20日(土) 12:30 開演 なかのZERO 大ホール

アニメーション映画『この世界の片隅に』が第41回日本カトリック映画賞に選ばれ、上映と授賞式が来る5月20日(土)、12時30分より「なかのゼロ 大ホール(東京都中野区)」にて行なわれます。本作は、この史代さんの同名漫画をアニメーション映画化、2016年キネマ旬報ベスト・テン日本映画第一位ほか、数々の賞を受賞しています。

主人公すずとその周囲の人々の戦時下の暮らしを淡々と描いたこの作品は、「観ると語りたくなる映画」として異例のヒットを記録し、日本各地、あらゆる世代から感動の声が上がっています。

上映と授賞式の後には、片瀨須直監督と晴佐久昌英神父（シグニス ジャパン顧問司祭）との対談を予定しています。日本カトリック映画賞恒例の授賞監督との対談では、映画とゲストのお話がひとつになって、また新たな感動が生まれる瞬間をご来場の皆様と共有する喜びを私たちは幾度も味わってきました。今年もきっと良いメッセージをお届けできると思います。

授賞理由について晴佐久神父は次のように述べています。——「主人公のすずが、道端にしゃがみこんで何かを見つめている。アリの行列だ。この世界の片隅にけなげに生きている、小さなアリを優しく見守る、すずのまなざし。そのまなざしこそは、最も小さな命をいとおしむ、この映画のまなざしである。いつの世にあっても、争いを起こすのは、自分が「この世界の中心」だと思い込んでいる人たちだ。彼らは、重くて固い靴で行進し、自らがアリの踏みつぶしていることなど、意にも介さない。彼らにとって「この世界の片隅」など存在しないのである。分断と排除の声が高まる、今の時代に最も必要なこと、それは、この世界の片隅をまっすぐに、敬意をもって見つめることなのではないか。この世界の片隅に幸せが訪れない限り、この世界のだれも幸せにはなれないのだから。イエス・キリストは、無力な人、弱い立場の人について、弟子たちにこう教えた。「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい」



(C) この史代・双葉社/
「この世界の片隅に」製作委員会

(マタイ18・10) もしも映画に、世界を幸せにするという使命があるならば、この世界の片隅をきちんと描くことを置いてほかにない。その意味で、片隅の人生に秘められた価値を信じ、片隅の涙に共感する観客の心を信じたこの映画は、間違いなくその使命を果たしている。すずが、自分を見染めてくれた周作に言ったひとことが、一瞬、映画を見ている自分に言われたような気がして、ぐっと来た。

「ありがとう。この世界の片隅に、うちを見つけてくれて」——
皆様のご来場を楽しみにお待ちしております。

チケット：1,000円 / 高校生以下、障がい者（含介助者1名）800円

販売所：聖イグナチオ教会案内所、スペースセントポール（東京カテドラル内）、サンパウロ書店（四ッ谷駅前）、ドン・ボスコ社（四ッ谷）、高円寺教会天使の森

メール・電話での申込み：SIGNIS JAPAN 事務局 info@signis-japan.org / TEL 090-8700-6860（担当 大沼）
バリアフリーについて ★字幕付き上映、対談は要約筆記および手話通訳付きです。

インターネットセミナー 報告

2年ぶりの『教会とインターネット』セミナーの濃密な内容

2月4日(土)午後2時より5時半まで、四谷の聖パウロ修道会若葉町修道院ホールで「第22回『教会とインターネット』セミナー」が開催された。参加者はスタッフ含めて42名、テーマは「教会ホームページは今」、講演を「教会ウォッチャー」の八木谷涼子さんにお願いした。

八木谷さんの講演は、初めて教会を訪ねる側にたつて、実際に教会ホームページ(以下HPと略)をスクリーンに投影しながら、「よい教会HPの条件」について話された。たとえばその教会の場所やアクセス方法、ミサの時間などの基本情報がHPを開いて10秒でわかること、Facebookで作られた教会HPはFacebookのアカウントを持っていない人には見られないこと、日曜のミサや礼拝にはじめてくる人歓迎の雰囲気が伝わってくるのが大事である、という数々の指摘には「目からウロコ」の感じであった。

続いて、シグニスのレポートとして「第3回 教会HP定点観測」の結果をまじえながら、オススメ教会ホームページの紹介、そして「教会HPを活性化するための10のオススメ」についてが報告された。

また後半のフリートークの時間では、活発な意見交換がおこなわれ、とても有益なセミナーとなった。今回はキリスト新聞にも告知をしたためかプロテスタントの教会から数名の参加があった。(土屋)

講演内容やシグニスレポート、フリートークの結果を報告書にまとめました。ご希望の方はシグニスまでお知らせ下さい。SIGNIS JAPAN info@signis-japan.org



感動したユスト高山右近列福

待ちに待った「神のしもべ ユスト高山右近列福ミサ」の日がやってきました。2月5日、大阪城ホール。主司式は、フランススコ教皇代理としてバチカンから来られた教皇庁列聖省長官のアンジェロ・アマート枢機卿、日本の司教たちだけでなく韓国やフィリピンからいらした司教が30人、祭壇の前と後方の席に並んだ司祭は約300人、ミッションスクールの合唱団や各地の教会信徒で結成された聖歌隊は900人、晴れやかな式を前に、1万人を収容する広い会場



は、祈りのうちにも喜びと高揚感に満ちていました。

アマート枢機卿はラテン語で、会衆は日本語でミサは進んでいきました。「あわれみの賛歌」の後「列福の儀」に入りました。「福者の列

に加えてくださるよう、ここに謹んでお願い申し上げます」と岡田大司教が請願をし、右近の略歴が紹介され、教皇の書簡が朗読されました。アマート枢機卿から「ユスト高山右近を私の使徒的権威によって福者の列に加えよう」と宣言され記念日が示されると、喜びのクライマックスである除幕式です。祭壇の上に高く掲げられた大きなモニターに高山右近の肖像画が現れました。これがバチカンのサンピエトロ広場だったら、まさに幕が落とされて隠れていた肖像画が見えるところですよ。今回の室内会場ではモニターの画像で、う〜ん、ちょっとね…という思いもあるのですが、やはり感動し大きな喜びがわいてきました。長年にわたって列福に携わってきた人々の努力と忍耐、祈り続けてきた信徒の力を感じ、すばらしい信仰の模範、人々の間にいてくださる祈りの人が日本の教会に公に示されたことを感謝しました。

列福で終わりではなく、列聖に向けての歩みが始まります。また、北原怜子さんなどの列福への動きもあり、ユスト高山右近に取り次ぎを願いたいと思います。

(Sr.清水)

賛助会員募集

一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。年会費一口 3,000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org
会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 土屋 至
郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋 至